

## 第79回日本医学会定例評議員会

平成24年2月22日（水）於：日本医師会館小講堂

午後3時開会

**議長**（高久史磨日本医学会長） それでは時間に  
なりましたので、ただ今から第79回の日本医学  
会定例評議員会を開催いたします。

ご多忙のところをお集まりいただきまして、あ  
りがとうございました。出席者に関してですが、  
定数が110名で現在89名の方がご出席ですの  
で、この評議員会は成立したことになります。

### 日本医師会長挨拶

**議長**（高久日本医学会長） それでは最初に日本  
医師会長の原中先生から、ご挨拶をよろしくお願  
いします。

**原中日本医師会長** 日本医師会長の原中ではござ  
います。日ごろ、先生方のいろいろな深い学術的  
な知識をもって会員の先生方が各地で勉強させて  
いただき、国民に対する間違いのない医療に努め  
られるということは、本当にありがたいことだと思  
っています。

歴史的にみると、日本医学会と日本医師会は戦  
後まもなく一緒になって、同じ組織の中にと  
うことになったようです。今考えてみると、日本の  
医療が健康寿命が世界一になったということは、  
まさに医療の水準、あるいは医師としての倫理観  
が一生懸命発揮されていることだと思います。医  
の倫理観は、われわれ医師共通の、基本的な立場  
で理解して活動しなければいけないわけですが、  
それにプラスして、現在の発達した医学の技術、  
知識、あるいは薬剤というようなもので、悩める  
人々を助けていくことが、本当に私たちの務め  
であろうと思います。

目の前の敵兵を助けて、助けた敵兵に撃たれて

死んでも、これが医師の倫理観だということがよ  
く原点として言われていますが、しかし、現在に  
おいては、先生方が研究されたいろいろな技術、  
あるいは知識というものが、一般の患者さんのた  
めに使われることが大切なことだろうと思ってい  
ます。

今、私たちが病診連携、あるいは診診連携と言っ  
て、目の前の患者さんが自分の手に負えない場合、  
当然先生方のご厄介になるような紹介をさせてい  
ただいていますが、この病診連携がきちんと構築  
されてこそ、日本の医療が正しく行われるものだ  
と理解しています。

今回、私たちの執行部ができてから、2年間連  
続して医療費を上げることができました。しかし、  
私たちは決して頭を下げて、献金をして、医療費  
を上げてもらうという立場ではありません。私た  
ちの手、私たちの技術が、唯一国民に手を加える  
ことの医療の担い手だということのステータス、  
あるいはプライドをもって、政府と交渉するとい  
うことが大切な姿勢だと感じてそれを実行してい  
ますが、幸いなことに2回とも上昇することがで  
きました。

おそらくここにおられる先生方の働いておられ  
る大きな病院が、前回の改定では大変恵まれた改  
定になったと思います。今回の改定では、先生方  
の大きな病院と共に、中小病院に対しても目を向  
けるようにさせていただきましたし、有床診療所  
の先生方も閉鎖することがないような環境づくり  
をしたつもりであります。

今回の医療費改定の附帯事項として、私たちの  
医療に対する医療費の使い方がどういう立場でな  
されなければいけないかということの基本を次に

## 第 79 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	酒井 シヅ	日本体力医学会	吉岡 利忠	日本心身医学会	野村 忍
日本解剖学会	河田 光博	日本産業衛生学会 (代)	大久保靖司	日本医療・	
日本生理学会	加藤 総夫	日本気管食道科学会	久 育男	病院管理学会	石川 澄
日本生化学会	(代)松沢 厚	日本アレルギー学会 (連)	足立 満	日本消化器	
日本薬理学会	松木 則夫	日本化学療法学会 (連)	生方 公子	内視鏡学会 (代)	田尻 久雄
日本病理学会	青笹 克之	日本ウイルス学会	柳 雄介	日本癌治療学会	西山 正彦
日本癌学会	野田 哲生	日本麻酔科学会	(欠)	日本移植学会	高原 史郎
日本血液学会	須田 年生	日本胸部外科学会	坂田 隆造	日本職業・災害医学会	柳澤 信夫
日本細菌学会	横地 高志	日本脳神経外科学会	寺本 明	日本心臓血管外科学会	高本 眞一
日本寄生虫学会 (連)	野崎 智義	日本輸血・		日本リンパ網内系学会	内藤 眞
日本法医学会	平岩 幸一	細胞治療学会	高橋 孝喜	日本自律神経学会	岩田 誠
日本衛生学会 (連)	小泉 昭夫	日本医真菌学会	渡辺 晋一	日本大腸肛門病学会 (代)	杉田 昭
日本民族衛生学会	渡辺 知保	日本農村医学会	藤原 秀臣	日本超音波医学会	千田 彰一
日本栄養・食糧学会	橋詰 直孝	日本糖尿病学会 (代)	春日 雅人	日本動脈硬化学会	下門顕太郎
日本温泉気候		日本矯正医学会	(欠)	日本東洋医学会	石川 友章
物理医学会	猪熊 茂子	日本神経学会	水澤 英洋	日本小児神経学会	大澤真木子
日本内分泌学会	森 昌朋	日本老年医学会	大内 尉義	日本呼吸器外科学会	近藤 丘
日本内科学会	富野康日己	日本人類遺伝学会	稲澤 譲治	日本医学教育学会	伴 信太郎
日本小児科学会 (連)	福永 慶隆	日本リハビリテーション		日本医療情報学会	大江 和彦
日本感染症学会	岩本 愛吉	医学会	里宇 明元	日本疫学会	児玉 和紀
日本結核病学会	渡辺 彰	日本呼吸器学会 (代)	弦間 昭彦	日本集中治療医学会	前川 剛志
日本消化器病学会 (連)	三浦総一郎	日本腎臓学会 (連)	草野 英二	日本平滑筋学会	春間 賢
日本循環器学会 (連)	和泉 徹	日本リウマチ学会	宮坂 信之	日本臨床薬理学会	景山 茂
日本精神神経学会 (代)	秋山 剛	日本生体医工学会 (代)	伊関 洋	日本神経病理学会 (連)	秋山 治彦
日本外科学会 (代)	青木 琢	日本先天異常学会 (連)	江馬 眞	日本脳卒中学会	小川 彰
日本整形外科学会 (代)	落合 直之	日本肝臓学会	小池 和彦	日本高血圧学会	島本 和明
日本産科婦人科学会 (連)	岩下 光利	日本形成外科学会 (連)	平林 慎一	日本臨床細胞学会	佐々木 寛
日本眼科学会	石橋 達朗	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本透視医学会	秋澤 忠男
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本小児外科学会	田口 智章	日本内視鏡外科学会	北野 正剛
日本皮膚科学会	飯塚 一	日本脈管学会	重松 宏	日本乳癌学会 (連)	秋山 太
日本泌尿器科学会 (連)	大家 基嗣	日本周産期・		日本肥満学会	宮崎 滋
日本口腔科学会	高戸 毅	新生児医学会	名取 道也	日本血栓止血学会	後藤 信哉
日本医学放射線学会	中村 仁信	日本人工臓器学会 (連)	塩野 元美	日本血管外科学会	古森 公浩
日本保険医学会	白水 知仁	日本免疫学会 (代)	三宅 健介	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本医療機器学会	大久保 憲	日本消化器外科学会 (代)	清水 伸幸	日本臨床腫瘍学会	大江裕一郎
日本ハンセン病学会	後藤 正道	日本臨床検査医学会	村田 満	日本呼吸器内視鏡学会	大森 一光
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本核医学会	伊藤 健吾	日本プライマリ・	
日本衛生動物学会	松岡 裕之	日本生殖医学会	苛原 稔	ケア連合学会 (連)	小泉 俊三
日本交通医学会	花岡 一雄	日本救急医学会	有賀 徹	日本手外科学会	佐々木 孝

(連)：連絡委員 (代)：代委員 (欠)：欠席

役員	高久会長・岸本・久道・門田各副会長
(幹事)	清水, 池田, 今井, 奥村, 八木, 齋藤, 中尾, 北村, 名和田, 成宮, 實成, 金澤, 岡井, 寺本 (欠席 吉本, 幕内, 里見)
総会	(第 28 回) 矢崎会頭, 永井準備委員長, 山崎幹事長 (オブザーバー) 事務局 藤 (第 29 回) 井村会頭, 本庶副会頭, 山岸副会頭, 森副会頭, 三嶋準備委員長, 平井幹事長 (オブザーバー) 事務局 中村
日医	原中会長, 横倉副会長, 高杉常任理事

考えていただきたい、と、それはあくまでも初診料、再診料、それと技術料、この3つのことを合わせて次の医療費改定まで考えていただくということを、きちんと附帯事項に書かせていただきました。

私たちは、この国民皆保険を守るということが現在の医師会の最大の目標でありますので、一生懸命努力いたします。先生方のお力を得ながら、間違いのない医療を続けたいと思いますので、医師会と先生方が本当に車の両輪のような働きで、日本の医療を守っていただければ大変ありがたいことだと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

#### ■議事録署名人指名

**議長**(高久日本医学会長) それでは、これから議事に入ります。最初に議事録の署名人をお願いしたいと思います。基礎・社会医学系からは日本癌学会の野田哲生先生、臨床医学系からは日本血液学会の須田年生先生、よろしくお願い致します。

#### ■次第(議事概要)説明

**議長**(高久日本医学会長) 次に、本日の評議員会の議事の概要ですが、最初に第28回日本医学会総会の終了報告をいただき、次に第29回日本医学会総会の準備報告をいただきます。次に2011年、すなわち平成23年度の日本医学会の年次報告。さらに協議事項として、2012(平成24)年度の日本医学会事業計画と2011(平成23)年度日本医学会加盟学会の件。さらに日本医学会長、副会長の選挙、および幹事の選挙。最後に日本医学会法人化の件について、これは少し時間をかけてご議論願いたいと考えていますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

#### ■日本医学会長挨拶

**高久日本医学会長** 次に、私の挨拶になっておりますが、おかげさまで日本医学会も、いろいろなところで発言をしたり、要望を出したりしてき

ましたことを、年次報告のときに申し上げますが、これもひとえに加盟学会の先生方のご尽力の賜物と、心から御礼を申し上げます。

#### ■第28回日本医学会総会終了報告

**議長**(高久日本医学会長) それでは最初に報告事項として、第28回日本医学会総会終了の報告を、矢崎会頭からよろしくお願い致します。

**矢崎第28回日本医学会総会会頭** ただ今ご紹介にあずかりました矢崎です。

昨年(2011年)4月2日から開催する予定であった第28回日本医学会総会が、ご存じのように3月11日金曜日に東日本大震災が起り、この学会も学術集会はほぼ100%、博覧会も90%近く準備したところで、どうするかということは大変な決断で苦勞しました。月曜日に余震の続くなか、副会頭、準備委員長、幹事長にお集まりいただき、そのなかで多くの人が集まる学術集会的なもの、博覧会的なものは無理ではないか。今はIT化が進んでいるので、オンラインで情報を伝える方法を考えようということで、開催の形態を大幅に変えて電子化して行うことを決め、早速、医師会館へ行き、日本医師会長にはお会いできましたが、日本医学会長はお留守でしたので、大変恐縮ですけれども、急ぎますので事後承諾ということでオンライン開催に決定し、すぐその日にホームページでオープンにしました。

学術集会有りいは博覧会に、学会の先生方、多くの方が本当にご協力いただきまして、深く感謝申し上げます。その経緯について、永井準備委員長から報告させていただきますので、よろしくお願い致します。

**永井第28回日本医学会総会準備委員長** 準備委員長を仰せつかりました東京大学の永井です。お手元の年次報告の1ページと配付資料の資料8に関連する件が説明してあります。

今、矢崎先生からお話がありましたように、震災後、1か所に集まっていただくことは取りやめになりましたが、予定していた講演者の8割の先生方から資料をいただき、学術講演DVDを作成いたしました。また昨年7月にこのDVDを2万

名を超える参加登録者に配付しています。

さらに「特別企画」を開催するということが後に決まりまして、9月17～18日、東京ビッグサイトで1,300名の参加者の下に開催されました。

博覧会は一旦中止になりましたが、6月15日～9月30日、インターネット上で公開し、さらに6月24～26日、すでに制作が終わっていたものについては科学技術館において体験博覧会を開催、15,000名の方にご来場いただきました。

もう1つは2月11日から、予定どおり医学教育史展「歴史でみる・日本の医師のつくり方～日本における近代医学教育の夜明けから現代まで～」を開催し、4月10日までの間に48,000名の来場者をいただいています。

いちばん頭を悩ませましたのは、参加登録費の返還です。すべての精算が終わりましたあとに参加登録費、資料8ですが、3億9,000万円のうち2億800万円をお戻しすることができました。これは典型的な登録者、25,000円の登録費を払われた方については13,200円の返還ということになります。すべての登録費は多少違いますので、53%お返しするというところにいたしました。

もう1つ、博覧会関係の収入については、資料8の下のほうに書いてありますが、7億100万円の協賛金をいただいていたのですが、これもある程度精算が済んだところで1億9,900万円、52.8%の返還ということになりました。以上の決算につきましては、新日本監査法人による監査を受けて確定しています。

以上です。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。本当に突然の災害でご苦労だったと思います。うまく処理していただきまして、どうもありがとうございました。

## 第29回日本医学会総会準備状況報告

**議長**(高久日本医学会長) 次に第29回日本医学会総会の準備状況について、井村先生お願いします。

**井村第29回日本医学会総会会頭** 第29回日本医学会総会の会頭に指名されました井村です。

第28回総会はただ今ご報告がありましたように、思わぬ震災で従来のような形で開催できず、関係の皆様、大変ご心労が大きかったのではないかと拝察しています。それだけに第29回総会の責任を強く感じています。

従来の医学会総会を関西で開催する場合には、京都だけ、あるいは大阪だけでそれぞれ準備をしてきました。しかし、今回はオール関西で開催することになりました。その理由は、関西の自治体の広域連合が2年前から発足して活動を始めていますし、また最近、国際戦略特区が京都、大阪、神戸一体として指定を受けたという背景があるからです。

したがって、副会頭としては、お手元の資料にありますように、きょうおいでいただいている京都大学の本庶先生、京都府立医科大学前学長の山岸先生、今日のご欠席ですが大阪大学総長の平野先生、それから神戸大学前医学部長の高井先生、それから京都府医師会の森先生にご就任いただいています。また、顧問の先生方のお名前も資料にあるとおりです。

私といたしましては、今回の総会は個別の分科会では議論できないような学際的な領域、あるいは広い範囲にわたる領域について、総合的あるいは学際的に議論をしていただく、そして、また一部は医療供給者側だけではなくて、医療を受ける人にも参加していただいて議論をする場にしたいと考えています。

現在、わが国では少子高齢化が進んでいまして、生産年齢の人口が減少するという人口オーナスといわれる状態になりつつあります。そのため経済成長は止まり、社会保障の負担が社会に重くのしかかる状況になっています。特に医療技術の進歩によって、医療費は上昇し続け、従来、比較的成り上がってきたわが国の皆保険制度が重大な危機を迎えようとしています。医療・皆保険を維持しながら、どうすれば持続可能な制度にできるのかということは、われわれが真剣に考えねばならない大きな課題であります。

一方、生命科学の進歩は大変目覚ましく、それに基づいた新しい医療技術、たとえばがんの標的

療法や、再生医療などが急速に発展しています。これらは今後一層進歩することは疑いありませんが、医療全体から考えると、私は発症の予防が大変重要ではないかと思えます。すなわち、遺伝素因に基づいてハイリスクグループをある程度選別し、発症前にバイオマーカーを使ってかなりの高い確度で診断をして、発症前に介入をするという先制医療というものが、今後大変大きな意味をもってくるのではないかと思っています。

お手元に私が最近書いた簡単な資料を付けていますので、ご覧いただきたいと思えます。

プログラムの編成につきましては、今後、日本医学会関係の各学会の先生方にご意見をいろいろ伺いたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、総会の準備状況につきましては、準備委員長の京都大学三嶋教授から報告をいたします。

**三嶋第29回日本医学会総会準備委員長** 準備委員長を仰せつかりました三嶋です。よろしくお願い致します。

準備状況についてはお手元の資料に記載していますが、少々補足説明をさせていただきます。先ほど井村会頭よりご発言がありましたように、今回はオール関西で開催することになりましたので、総会の名前も「第29回日本医学会総会2015関西」といたしました。会場は主に京都と神戸に分かれて開催することになります。

学術講演ですが、2015年の4月11～13日に国立京都国際会館などで予定しています。展示ですが、1つは医師専門関係の学術展示を京都市で開催することになっています。

一般向けには、神戸の国際展示場を中心として、春休み期間中の3月28日～4月5日の9日間行う予定ですが、神戸国際会議場はポートアイランドにありまして、ポートアイランドのいわゆる先端医療センターとか、スーパーコンピュータの施設がありますので、いわゆるポートアイランド・サイエンスツアーというものを行い、小中高の学生に興味をもってもらえる企画を開催したいと思っています。

また、医学教育史展を2月11日～4月12日の

約2か月間、京都大学総合博物館で日本医史学会のご協力を得て開催したいと思っています。今後、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。それでは、井村先生、よろしくお願いいたします。

## 2011(平成23)年度日本医学会年次報告

**議長**(高久日本医学会長) 次の議題は平成23年度の日本医学会年次報告の件であります。これは私がやらせていただきます。

お手元に「2011(平成23)年度日本医学会年次報告」がありますので、これをご覧になっていただきたいと思えます。

まず4ページですが、日本医学会幹事会を今年の7月13日に第1回目の会合を開き、このときに「日本医学会の法人化について」を議論いたしました。2回目は本日、先ほど開催しました。

3.はこの会議です。

4.は日本医学会法人化準備委員会ですが、委員長は順天堂大学の富野教授です。あとでご報告いただきたいと思います。委員は12名で構成され、今年の9月13日と12月19日に委員会を開催しています。

次の5ページ、日本医学会シンポジウムですが、140回のシンポジウムはテーマが「炎症性腸疾患—最近の進歩—」で今年の6月9日に、141回は「がん分子標的治療の進歩」ということで12月8日に開催しています。

次に7ページをご覧になっていただきたいと思います。日本医学会が一般の方を対象にして開く公開フォーラムは、「心の病—うつ病を中心として—」をテーマに今年の6月4日に第12回を開催しました。非常に関心が高く、多くの方の参加を得ることができました。

次に8ページをご覧になっていただきたいと思います。7.日本医学会分科会用語委員会を今年12月20日に開催しています。

また、9ページの8.日本医学会医学用語管理委員会は2回開催し、主に各学会の用語委員の方に集まっていただき、各学会の用語の調整の問題に

ついて議論をしていただきました。

同じく9ページの9.日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会は9月7日に開催し、10ページでご覧のように、京都大学の武藤 誠先生、北海道大学の浅香正博先生、国立障害者リハビリテーションセンターの中村耕三先生の3人が医学賞を受賞されました。

次に11ページをご覧になっていただきたいと思います。日本医学会加盟検討委員会を6月8日に開催しています。この問題については、このあと久道委員長からご報告をいたしますので、ここでは省略させていただきます。

12ページが日本医学会あり方委員会です。この委員会は平成16年に発足していきまして、委員長は金澤一郎先生です。このあとに法人化の問題が出てきますが、法人化した学会はどのような活動をするかということは、主にこの日本医学会あり方委員会で検討していただきたいと考えています。

日本医学会は、ご案内のように臨床部会と社会部会と基礎部会に分かれています。臨床部会の中には運営委員会と、さらに専門医制に関する委員会、診療関連死に関する委員会の3つの委員会を開催していましたが、専門医制に関しては、日本専門医制評価・認定機構の理事長である池田先生のところでいろいろ検討されていますので、その検討の結果に対して、この委員会で対応していききたいと考えています。

診療関連死に関する委員会は、お手元の資料の最後のほうに付録として付け加えています。一般社団法人日本医療安全調査機構が平成22年度にできました。この機構は従来から日本内科学会が行ってききました、「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」を引き継いだ形で運営されており、日本医学会、日本内科学会、日本外科学会、日本病理学会、日本法医学会の5団体によって構成されていきまして、この調査機構に診療関連死に関する委員会の議事を委ねることになっています。

この調査機構は、さらに来年度には、その範囲を広げ、日本医師会、さらに日本病院協会に参加

していただき、さらに、第三者機関を作るように提案した19の学会にも参加を呼びかけているところです。

次に14ページをご覧になっていただきたいと思います。15.日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会、この問題に関しては信州大学の福嶋医学部長が中心になられて、遺伝子の問題と社会との関連についての問題を議論し、すでに3回目の委員会を3月1日に開催する予定になっています。

次に16.日本医学会分科会利益相反会議は、徳島大学名誉教授の曾根先生が中心になられ、昨年の11月16日に総会と、それに引き続きシンポジウムを開催しています。

また、日本医学会臨床部会利益相反委員会では、これも曾根先生が中心になられて、「医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」を作り、各学会にお配りしました。また、英語版を昨年作成しました。

15ページの18.日本医学会社会部会 Japan CDC (仮称)創設に関する委員会、委員長は實成先生で、運動の開始が遅れましたが、24年度には積極的に日本版CDCの創設に向けての提案をしていきたいと考えています。

16ページ、19.日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE)総会・シンポジウムは昨年の10月5日に第4回を開催しています。

また同じく日本医学雑誌編集者組織委員会、この委員会は平成20年に発足していきまして、委員長は東大の北村教授です。各学会が出版しています医学雑誌についてのあり方や、統一性の問題について検討しています。さらにアジアの医学雑誌編集者会議を近い内に日本にもっていききたいという話が出ています。

次の日本専門医制審議会は、日本専門医制評価・認定機構が第三者機関を作るという話がありまして、日本医学会もその機関に参加することになっているので、その方向に自動的に移っていくものと理解しています。

17ページ、22.日本医学会だよりはお手元のとおりです。

次に日本医学会からの情報発信ということで、日本医学会はホームページを利用して「日本医学会 東日本大震災関連情報」などについて情報を出していますし、また、「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン」のQ&Aをホームページに掲載しました。また、日本医学会分科会機関誌一覧をホームページに掲載しています。

また、昨年(2011)の9月28日には、環境大臣ならびに文部科学大臣に「動物愛護管理法の見直しに際して実験動物に対する配慮への要望」を提出しました。これは日本神経科学学会ならびに日本再生医療学会などからのご要望に応えたものであります。

さらに、9月16日に「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン」英語版をホームページに掲載しています。

12月5日には環境省からの『「動物愛護管理のあり方について(案)(「動物取扱業の適正化」を除く)』に対する意見の募集』に、日本医学会として実験動物を除外するようというパブリックコメントを出しています。

また、12月27日に文部科学省からの『「今後の医学部入学定員の在り方等に関する検討会」論点整理に関する意見募集』に対して、日本医学会としては基本的に医学部増設には賛成しかねるという意見を出しています。

最後に、今年の1月27日に民主党環境部門・動物愛護対策ワーキングチームに、「動物愛護管理のあり方検討小委員会の最終報告に対する意見」を提出しています。この意見については、29ページに出ていますのでご覧になっていただければと思います。

さらに、この前の幹事会で、がん登録の法制化に関する要望書を、日本医学会ならびに関連する学会から、厚生労働大臣ならびに政務官などに出すことが認められましたので、内容を詰めて出したいと考えています。

また、がん対策協議会から日本の喫煙率を12.2%下げるという案が出ました。それに対していろいろな議論がなされているようですので、日本医学会と日本医師会とで、この数値に関しての

意見書を近いうちに提出する予定です。

以上、簡単ですが、平成23年度の日本医学会の年次報告を終わらせていただきます。

## 2012(平成24)年度日本医学会事業計画

議長(高久日本医学会長) 次に協議事項に入ります。2012年度の日本医学会事業計画の件ですが、これは2011年度の日本医学会年次報告とほとんど同一です。これに加えて、日本医師会が平成25年度から公益法人になることが決まっていますので、日本医学会としても24年、あるいは25年にかけて法人化についての具体的な計画を立てていく予定です。このことが23年度に加え、24年度に新しく加えるかなり重要な事業になると思います。この点に関しては、この後またご議論をいただきたいと思っています。

## 2011(平成23)年度日本医学会 新規加盟学会

議長(高久日本医学会長) 次に2011年度日本医学会加盟学会の件について、これは久道委員長からお願いします。

久道日本医学会加盟検討委員会委員長 日本医学会加盟検討委員会からの報告と、ご審議をお願いしたいという提案です。

資料番号1の、先ほどの日本医学会年次報告の11ページをお開きいただきたいと思います。高久会長はここところは省略しましたので、私のほうで少し述べさせていただきます。平成23年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、昨年(2011)の6月8日に開催いたしました。構成委員は11ページの下欄に書いてある方々です。

第1回の検討委員会では加盟検討委員会報告の改定を行いました。これは事前に、前回のこの評議員会で基本的なところは了承をいただいたうえで検討委員会での議論でありましたけれども、これまでと違うところは、従来は加盟申請の数が20~30あると、そのなかから条件が満たされていても数を絞って2件、3件というように選び方をしていました。それは非常に不都合ではないかというご意見もありましたので、選定の仕方

を大幅に変えました。

第2回の検討委員会を昨年12月14日に開催しました。今年度の加盟申請はお手元の資料、今、配付したと思いますが、25の学会から新規加盟の申請がありました。これを委員会全員による書面の審査によって、分科会として加盟させて適当かどうかという判断を一定の基準に従い絞り込みました。そのなかで5件の学会が絞り込まれましたので、その5件について、今度は第2回の検討委員会でいろいろ議論をしながら、さらに出席した方の2/3以上の賛成という条件で、分科会として適当かどうかの判断をしました。

その結果、配付資料の2枚目と3枚目にありますように、日本脊椎脊髄病学会と日本緩和医療学会の2学会が分科会として加盟させるのにふさわしい学会と考えるという委員会での判断となり、詳しくはこの資料をご覧くださいと思いますが、日本医学会協議会に諮り、先ほどの幹事会に諮って、この評議員会で最終的に決定させていただくことになりましたので報告をいたします。ご審議いただければと思います。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございます。ただ今の2つの学会の加盟に対して、どなたかご意見はありますでしょうか。

それではご賛同いただいたものとさせていただきます。どうもありがとうございます。

## 役員選挙

**議長**(高久日本医学会長) 次に、日本医学会役員選挙に移りたいと思います。これは会長、副会長、幹事の選挙でして、幹事は基礎1名、社会1名、臨床1名です。

### ■選挙立会人指名

**議長**(高久日本医学会長) 選挙の立会人ですが、結果を掲示する場所のいちばん近くに座っておられる先生方、日本解剖学会の河田光博先生、日本法医学会の平岩幸一先生、日本胸部外科学会の坂田隆造先生の3人の先生にお願いしたいと思います。

### ■会長選挙

**議長**(高久日本医学会長) ご案内のように、あらかじめ各学会から予備投票をいただいています。先ほどの幹事会で、予備投票のなかで候補になられた方から1名1票だけの方は会長、副会長の選挙から外させていただきます、お手元に1票以上の方、すなわち2票以上の方のお名前があります。

このなかで、実は突然で誠に恐縮ではありますが、岸本忠三先生からご多用であるということ、その他の理由で会長と基礎部門の副会長の候補を辞退したいというお申し出がございました。ご本人のお申し出ですので、岸本先生を会長ならびに基礎の副会長の候補から外していただくようお願いしたいと思います。

最初に会長の選挙をするわけですが、司会は久道先生よろしくお願いします。

**久道副会長** 副会長の久道です。僭越ですが、会長の選挙だけ私が進行役を務めさせていただきます。というのは、会長の候補者として現会長、基礎部門、今、岸本先生についてはご辞退ということでしたけれども、岸本先生と門田先生、このお二方の副会長も候補者として名前を連ねていますので、名前のない私が司会を執るのが適当だろうと先ほどの幹事会で決められましたので、そのようにさせていただきます。

資料7「学会長および学会副会長の選挙に関する内規」があると思います。そこに「選挙方法」というのが入っています。「評議員会において、各評議員の投票によって行う」、それから「投票資格者は評議員であるが、評議員が投票できない事情がある場合には、その評議員の属する分科会の連絡委員が代わって投票を行うことができる」「学会長は、評議員の中から選挙立会人」、先ほどの3名の方ですが、「3人を指名し」ということです。それから「学会長および学会副会長の選挙は、いずれも、同日中にこれを区別して行うものとする」ということですので、最初は学会長だけの選挙をお願いすることになります。

それから「当選人の必要得票数」が書いてありますが、「学会長および学会副会長の選挙におい



ては、有効投票の総数の三分の一以上の得票を得なければならない」「前項の場合において、三分の一以上の得票を得た者がいないときは、有効投票の最多数を得た者二人をもって候補者とし、学会長および学会副会長の選挙を行う」という内規です。

「選挙に関して疑義が生じたときは、現学会長が評議員にはかって決定する」ということになりますので、このやり方に従って選挙をさせていただきますと思います。

この選挙の方法について、何かご質問があればご発言願いたいと思いますが、特にありませんでしょうか。

どうぞ。

**質問** 投票権についてですが、代理出席の場合には投票権はあるのでしょうか。

**久道副会長** 今、事務局に聞きましたら、代理人の方も投票権はあるそうですので、どうぞよろしく願いいたします。ほかにご質問はないでしょうか。ないようですので投票用紙をお配りいたします。会長候補の3人の方のうち1人を先生方に投票していただき、集票したいと思います。

ただ今から議場封鎖をさせていただきます。それでは投票用紙を配ってください。

(投票用紙配付)

**久道副会長** 用紙のない方はいらっしゃるでしょうか。

(投票執行)

**久道副会長** それでは集票をお願いいたします。先ほど立会人をお願いしましたお三方の先生、よろしく願いいたします。

(事務局投票数を計算)

**久道副会長** 開票が終わりましたので、結果を報告いたします。立会人の3人のサインをいただいています。

有効投票数が106票、したがって内規にあります1/3以上というのは35票になります。結果は

高久史麿候補 78票

門田守人候補 14票

矢崎義雄候補 14票

ということで、高久先生に会長をお願いすること

になりました。

以上です。

## ■副会長選挙

**議長**(高久日本医学会長) それでは副会長の選挙をお願いしたいと思います。副会長は3枚が1つの綴りになっていまして、事務局で最初に数を確認するので、3枚一組のまま切り離さないで記入いただき、投票いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

立会人の方は先ほどの3名の方、よろしく願いします。

(投票用紙配付)

(投票執行)

(事務局投票数を計算)

**議長**(高久日本医学会長) それではただ今投票結果を報告いたします。

まず基礎部門ですけれども、

清水孝雄候補 51票

奥村 康候補 24票

成宮 周候補 21票

白票 5票

無効票 5票

清水先生が基礎部門の副会長に選ばれました。

次に社会部門は

久道 茂候補 84票

小林兼毅候補 7票

佐藤 洋候補 7票

實成文彦候補 3票

白票 5票

久道先生が社会部門の副会長に選ばれました。

最後に臨床部門ですが

門田守人候補 46票

永井良三候補 14票

池田康夫候補 13票

矢崎義雄候補 12票

金澤一郎候補 9票

里見 進候補 7票

幕内雅敏候補 4票

白票 1票

門田先生が臨床部門の副会長に選出されまし

た。どうもありがとうございました。

## ■幹事選挙

**議長**(高久日本医学会長) 幹事の選挙があります。幹事の方も午前中の幹事会で選ばせていただき、お手元の資料にあると思いますが、基礎が7名の方、しかし、清水先生は副会長に選出されましたので候補から外れます。社会が10名の方、臨床が6名の方が立候補者になりますので、投票をよろしくお願いします。

(投票用紙配付)

(投票執行)

(事務局投票数を計算)

**議長**(高久日本医学会長) 投票の結果を報告いたします。幹事の場合には1/3ということはありませんで、投票数がいちばん多い方が1人選ばれることになっています。

臨床部門は池田康夫先生が42票で最高得点です。

社会部門は相澤好治先生が5票で最高になっています。

問題は基礎のほうでして、内山先生と野田先生が同票です。誠にご面倒なことをお願いして恐縮ですが、内山先生と野田先生のどちらかをお書きいただければと思います。基礎だけです。

(投票用紙配付)

(投票執行)

(事務局投票数を計算)

**議長**(高久日本医学会長) 再投票の結果、日本癌学会の野田先生、よろしくお願いします。

基礎部門 野田哲生先生

社会部門 相澤好治先生

臨床部門 池田康夫先生

どうもありがとうございました。

## ■次期会長 副会長挨拶

**議長**(高久日本医学会長) 議事の進行案によりまして、次期会長、副会長の挨拶3分となっておりますが、時間がありませんので、私が1分、新しく副会長になられた清水先生から2分挨拶をさせていただきますと思います。

**高久日本医学会長** 今回、お選びいただきましてどうもありがとうございました。私も3月いっぱい今の大学を辞めますので、だいぶ時間ができますから日本医学会のためにもう少し時間を費やしたいと思っています。よろしく願います。

どうもありがとうございました。(拍手)

**清水日本医学副会長** はからずも本日、たまたま出てきたら選ばれてしまいました。清水でございます。幹事会で、事前の推薦では岸本先生が圧倒的だったので、そのまま行くと思っていたのですが、岸本先生が突然降りられてしまって、私がやることになりました。

私は今まで日本医学会の活動はほとんどしていませんが、先ほどからお話を聞きますと、医師像の問題とか、あるいは実験動物の取り扱いの問題とか、基礎の分野でもいくつか重要な問題もあるかと思しますので、そういうことで高久先生をお手伝いしていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。(拍手)

## ■日本医学会法人化の件

**議長**(高久日本医学会長) それでは、あと予定の5時まで40分ほどありますが、日本医学会の法人化について少しご議論をお願いしたいと思います。

私が簡単にご紹介申し上げますと、以前にもたとえば太田先生、熊谷先生が日本医学会長るときに、日本医学会は日本医師会とある程度独立した存在であったほうがよいのではないかという議論が委員会で作されたという記録がありますが、なかなか医師会の了解が得られず、そのままになっていました。

また、先ほどご紹介しました日本医学会あり方委員会、金澤先生が委員長ですが、その委員会でもアンケートを取りましたところ、多くの学会が、日本医師会と協調していろいろなことをするけれども、組織上はある程度独立した存在である必要があるという意見が大部分でした。

そうしたご意見を踏まえ、昨年、医師会の幹部の先生方と、私、副会長、内科学会理事長、外科

学会の理事長といろいろお話をいたしました。先ほどのアンケートの結果や、先ほどご紹介した医療安全調査機構に日本医学会が加入して医療安全の問題に関与することになりましたが、医学会が法人化していないと社員になりにくいという医療安全調査機構からの意向も話しました。また池田先生の専門医制評価・認定機構が第三者機関を作るのであれば、そこに日本医学会が入るときには法人化していたほうがよいということをお話して、医師会の先生方のご了解を得ました。富野先生に法人化準備委員会の委員長になっていただき、今、検討しているところです。

恐縮ですが、富野先生から簡単にご説明をよろしくお願いたします。

**富野日本医学会法人化準備委員会委員長** 日本内科学会の富野です。日本医学会の法人化について準備委員会での検討経緯をご説明申し上げます。

皆様ご承知のとおり、日本医師会では平成25年の公益社団法人化を目指していることから、当会としても今後のあり方について検討してきました。

平成21年に行った日本医学会あり方委員会の第1回アンケートで、107分科会中73学会から法人格をもつことに賛同をいただきました。

昨年5月に日本医師会の役員と、日本外科学会、日本内科学会の理事長を交えた話し合いで、日本医学会が法人格をもつことに賛同を得ました。それを受け、昨年9月13日に第1回の日本医学会法人化準備委員会を開きました。構成委員であります。委員長が私、富野康日己（日本内科学会）、副委員長の里見進（日本外科学会）および10分科会の評議員、そして高久会長、門田副会長、久道副会長のご参加を得て開催し、討議を進めてまいりました。

昨年12月19日に第2回法人化準備委員会を開催しました。この会には岸本副会長のご参加もいただいています。

その後、第2回アンケートを行い、110分科会中99分科会から、法人格を持つことに賛同をいただきました。反対は1分科会、無回答は10分科会でした。当委員会といたしましては、公益法人

もしくは一般社団法人として、法人格を持つ方向で行きたいと考えています。

その目的は、医学および医療の水準を向上し、また時代に合った最新医学、および医療の正しい知識の社会への啓発、普及活動を行い、もって国民の公衆衛生の向上と健康増進に寄与することなどです。また、当会が要となって、加入分科会相互の一層の連携を図りたいと考えています。

しかしながら、日本医学会が法人格を持つに当たっては、経済的に独自の運営を行うことになり、検討が必要であります。アンケートの際にお知らせしましたように、年間約9,800万円程度の運営資金が必要です。法人としての運営に当たっては、各分科会から会費としてご負担いただくこととなりますので、第2回アンケートで大まかな案を提示し、ご意見をいただきました。その結果、第1案が賛成27、第2案が賛成24、第3案が賛成36です。

ちなみに第1案は、日本医学会会員数、平成23年6月1日現在86万647人にて均等割し、各学会所属会員数に応じて拠出する。

第2案は同様ですが、ただし基礎系、社会系分科会では、非医師会委員の比率が高いことから「×1」、臨床系分科会は「×2」を拠出する。

第3案は、各分科会は日本医学会に社員として参加するため基本的負担金5～10万円を拠出し、残りを各分科会所属会員数に応じて拠出するといったしました。

しかしながら、意見が分かれ、また、各分科会への負担も大きいと思われますので、今後さらなる検討が必要であります。負担の軽減策として、運営資金の削減、節約、加入分科会の追加、本日2学会についてご議論いただきました。3番目として、賛助会員募集の検討などを行いたいと考えています。

今後、準備委員会で十分に検討し、各分科会のご理解、ご賛同を得たいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在は一般社団法人日本医学会定款（案）を作成し検討に入っていますが、公益法人化ということになりましたら、新たに案を作成し検討いたし

たいと考えております。

なお、定款は大まかなものとし、運営に関しましては細則を作成する方針であります。各分科会におかれましては、基礎部会、臨床部会、あり方委員会、運営委員会等でご協力をお願い申し上げます。

以上です。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。ただ今の富野委員長のご報告にどなたかご質問、ご意見がございましょうか。

なるべく費用がかからないように努力をする予定です。したがって、出席の委員の方々にも、旅費は出しますが、たぶん報酬は出ないと思いますし、役員もおそらくボランティアでサービスすることになると思います。

いちばん悩ましい点は、公益法人化をすると寄付は受けやすいのですが、事務処理が非常に大変だという話でして、それだけの事務能力が今のところないものですから、事務処理をする人を頼むとなると少しお金がかかるかもしれません。しかし、寄付をする会社は免除の上限を超えているから一般法人でも公益法人でも同じだという意見がありまして、そのへんは私たちは全く素人ですので、これから少し時間ができますので、ゆっくり勉強して、富野先生をはじめ、あり方委員会委員長の金澤先生などによくご相談申し上げながら方向を決めていきたいと思っています。まだしばらく時間がありますので、ご猶予いただきたいと思っております。

もう1つはやはり今まで、いろいろな学会が声明やご意見を出されるときに、日本医学会もそれと一緒に出していくという形にしたほうが、少しインパクトが大きいのではないかと思います。そういう方向は、ぜひ今後とも考えていきたいと思っています。

何かご質問は、どうぞ。

**高本** 心臓血管外科学会の高本と申します。昨年の評議員会で、日本医師会の下であるということは、医師会に魂を売っているのではないかとということをお申し上げましたら、そのことをご理解していただいて、独立法人になるということを決められたということで、私にとって非常に喜ばしい。そのことをお認めいただいたのではないかと考えています。

医療安全に関しては、医療安全調査機構は日本医学会の会長が理事長です。それが大事であるということで法人化されるということは、医療安全を非常に大事に考えられているということで、この件に関しては敬服いたしますが、実際は医療安全に関しては日本外科学会、日本内科学会、日本病理学会、日本法医学会、この辺りが、あるいはほかの学会が中心になっており、高久先生には理事会には出ていただいておりますけれども、やはり日本医学会の動きは非常に鈍いと思います。理事長であるからには、もっともっと責任をもってちゃんとやっていただかないといけません。本来はこの医療安全調査機構の理事長であるのですから、日本医学会が主体となってこれを運営しなければいけないわけです。先ほ少し時間ができたからと言われましたけれども、全力を挙げてこれに当たっていただかないといけません。そんな生やさしいものではないということをご認識いただいて、さらに頑張っていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

**議長**(高久日本医学会長) 高本先生からいつも励ましの言葉をいただいて、どうもありがとうございました。

ほかにどなたか。

それではこれで本日の評議員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後4時34分閉会